

果樹産地再活性化活動をJA職員が中心となってコーディネート

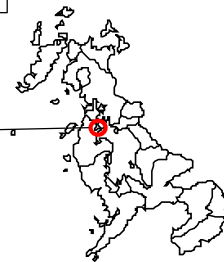
こむかえ
(長崎県西海市小迎地区)

果樹地域
(果樹モデル地区)

地域の状況

- 小迎地区は、主に柑橘類が生産されている果樹地域であるが、農地が狭小で、道路・水路も未整備のものが多く、農業機械の導入(大型化)による労働力の軽減や経営規模の拡大等が行えず、農業経営の安定化が図れない状況。
- 所有者の一部は、基盤整備を行い担い手に貸付けても、将来(20~30年後)的には、借り手が不在になることを懸念し、事業実施に消極的。
- 園地転換を進めたものの、現在では耕作放棄地となった農地が多数存在。
(注)「小迎地区」は、人・農地プランの区分としては実質化したプランとなっている。

西海市
小迎地区



取組の内容

- 「みかん産地」の存続に不安があるJA長崎せいひのJA職員が中心となって基盤整備事業の実施やブランド化のための活動をコーディネート。樹園地の農地流動化を進めるため「西海市樹園地活性化委員会」を設立(平成22年)。JA柑橘部会員(400戸)を対象に意向調査を実施(23年)。基盤整備事業の実施とブランド化を図るため「小迎地区営農検討委員会」を設立。規模拡大には、既存園地での生産を維持しつつ、新たな園地を確保する必要があるため耕作放棄地調査を実施し、基盤整備事業の対象候補を選定(24年)。
- 人・農地プランは旧町(西彼町)で作成されており、地区での話し合いは、JA柑橘部会や基盤整備事業関係者で行われるが、話し合いには、西海市農業振興公社や農業委員会も参画し、共有された水土里情報も活用。
- 農地中間管理事業を実施し、地区内の約100%の農地中間管理権をストック。機構集積協力金を基盤整備事業に係る賦課金等に活用予定。
- 労働力生産性を抜本的に向上させるため、未来型果樹等推進条件整備の導入を検討中。

成果

- 農地流動化の意向調査や耕作放棄地調査等による取り組みの結果、当該地区の12haを集積。
- 区画整理・用水のパイプライン化を図るため、「農業競争力強化農地整備事業」を30年度から実施。(平成30~37年(予定))
- 事業完了後は、優良品種の果樹等の高収益作物に取り組む新たな担い手が、人・農地プランの新たな中心経営体となることが期待できる。



地権者説明会